

【様式①】令和5年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 藍川中学校

校長名 後藤 善彦

| 市の重点課題 | 学校の重点項目 | 自己評価 | 達成状況 | 学校関係者評価委員会から | 改善の方向 |
|---------------------------------|---|------|---|--|---|
| 希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成 | ・各教科の見方・考え方を働かせて学び合う協働学習を通して、自己の学びの変容を実感させるとともに、探究的な学びの実現に向けた授業改善を推進する。 | A | ・研究推進委員会を中心として、効果的な協働学習の在り方について方策を打ち出し、全教職員が共通理解をして校内授業研究を推進させることができた。 ・保護者評価の「学習意欲を高める工夫がされた授業が行われている」の項目が3.27(4段階評価、昨年度3.15)という値になり、授業改善に向けた取組が評価されることにつながった。 | ・以前に比べて落ち着いた雰囲気の中で授業が進められており、互いの意見を聞き合う関係ができてきているという意見をいただいた。 ・電子黒板やタブレットなどICT機器を有効活用しており、学力の向上につながることができているという意見をいただいた。 | ・授業改善が進められているが、まだまだ生徒自らが主体的に学ぶ姿につながっていない。仲間とともに学ぶよさを味わせながら、学習に取り組む意欲を高めさせるとともに、自ら学習を調整しながら、粘り強く取り組む態度を育成できるようにする。 |
| コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進 | ・学校運営協議会や支援推進員会、PTAの機能を活用し、地域人材を生かした教育活動を進めたり、生徒が地域行事やボランティア活動に積極的に参加したりすることを通して、地域と共に歩む学校づくりを推進する。 | A | ・地域の方が教育活動に参加したり、生徒が主体的に地域行事に参加したりするなど、学校と地域が連携してコミュニティスクールとしての機能を高めることができた。 ・保護者評価の「地域との連携を大切にしている」という項目が3.29(4段階評価、昨年度3.25)という値になり、地域活動のようすを学校から発信させてきたことがこのような評価につながった。 | ・地域行事やボランティア活動へ参加する生徒が増えており、地域のフェスティバルなど一生懸命に活動している姿が見られたという意見をいただいた。 ・支援推進委員会の活動の一つである土曜寺子屋の生徒の参加数が少なく、来年度に向けて改善を図ってほしいという意見があった。 | ・学校と地域とのさらなる連携・協働を図り、地域の教育力を生かした教育活動を推進させていく。また、生徒が主体的に地域と関わりながら、社会生活を営むことの大切さを実感できるようにする。 |
| あたたかさ働きがいにあふれる学校づくり | ・教職員の時間外勤務を減らすために、生徒の下校時間など週時程の見直しを図り、ゆとりをもって業務を進めたり、コミュニケーションを活性化させたりすることで、同僚性を高めることができるようにする。 | B | ・週時程を見直したことによって、放課後の時間を生み出すことができ、教職員の業務を効率的に進めることができた。その結果、時間外勤務の時間が1月では33:03となり、昨年度1月の65:12より大きく減らすことができた。また、教職員同士の会話が増え、職場の雰囲気が明るく活発になった。 | ・放課後の時間の生み出しにより、保護者への電話連絡や家庭訪問など、丁寧な対応ができていたという意見があった。また、地域との連携に関わる打ち合わせを放課後に行うことができ、働き方改革にもつながることができた。 | ・自由に意見が言い合えること、自分の業務実績が平等に評価されること、校務分掌や学年、教科部など組織としてのめざす姿を共有することなど、全教職員が働きがいのある職場づくりをめざしていく。 |
| 災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保 | ・災害や事故の時に、生徒自らが自分の命を守るための実効性のある「命を守る訓練」や「防災研修」を充実させる。 ・一人一人の良さを認め、価値付けたことを教職員間で共有するなど、開発的な生徒指導を推進する。 | B | ・危機管理マニュアルの見直しや改善を図り、災害や事故発生時の対応を明確にすることができ、さまざまな状況を想定した命を守る訓練を行うことができた。 ・保護者評価の「自己やけがへの対応が適切に行われている」という項目が3.54(4段階評価昨年度3.41)という値になり、学校の安全管理について評価を得られた。 | ・生徒の引き渡し訓練を実施したことで、実際の引き渡しの際に混乱なく短時間で行うことができていたという意見があった。 ・地域と協働して行ったDIG訓練は、様々な災害を想定しながら、危険箇所を確認したり、避難のルートを考えたりするなど充実したものになったという意見があった。 | ・危機管理に関する校内研修を実施し、教師一人一人の危機管理への意識を高めるとともに、命を守る訓練では教職員が組織的に行動できるようにしていく。 ・開発的な生徒指導を継続することで、個の面では自信や責任感、思いやりの心を育み、集団の面では豊かな人間関係づくりや規範意識の醸成をめざしていく。 |
| 教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用 | ・ICT機器の適切な活用と管理を行うことで、教職員の情報管理への意識を高めるようにする。 ・学校財務について適切な管理を行うとともに、学校施設の整備や改善を計画的に進めていく。 | B | ・計画的にICT機器の活用に関する校内研修を行ったことで、授業においてロイノートを活用するなど、生徒の学力向上につながることができた。 ・学校財務について、管理職や担当者が整合性について十分に確認し、適正な学校財務運用に努めた。 | ・学校施設の老朽化が見られ、学校修繕について計画的に進めていく必要があるという意見があった。 ・学校施設夜間開放に関わり、地域の方がさらに利用しやすいように、施設設備の整備をさらに充実してほしいという要望があった。 | ・情報管理や情報セキュリティなどの校内研修をさらに充実させ、ICT機器を適切に活用するとともに、情報管理への意識を高めていく。 ・校内施設点検を日常から行いながら、校内環境の状況を把握し、教育環境の整備をさらに進めていくようにする。 |

HPアドレス:

<https://gifu-city.schoolcms.net/aikawa-j/>